



みんなのできる 地球温暖化防止活動

—カーボン・プライシングを考える!!—

福島県地球温暖化防止活動推進センター

事務局長 鈴木和隆

(特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク)

※マークは県の地球環境保全のキャラクターです

ります。

どういうことでしょうか？CO₂排出者は、その排出量に応じて、排出の対価を支払うことになるからです。カーボン・プライシングの具体的な手法には、炭素賦課金や排出量取引制度（ETS）などがあります。

■炭素価格

世界銀行の資料によれば2022年4月現在、世界では68のカーボン・プライシングの制度が運用されています。炭素価格は、いくらでしょうか。国際エネルギー機関（IEA）は、先進国で必要な2030年の炭素価格は130ドルとしています。1ドルを130円とすれば、16,900円/CO₂トンになります。日本の「成長志向型カーボン・プライシング」構想での試算は、炭素価格を約1,500円/CO₂トンとしています。IEAの10分の1程度と低いです。

■みんなのできる地球温暖化防止活動

「成長志向型」「GX（グリーン・トランスフォーメーション）」などの言葉が飛び交います。しかし、本格的な導入が2028年度からとか、ETSの対象分野から大量排出事業者を除外するような動きもあります。カーボン・プライシングなど脱炭素社会をつくるための政策の実効性が問われています。

(連絡先) <http://fukushima-ondankaboushi.org/>

■カーボン

念のために、『三省堂国語辞典（第8版）』で「カーボン」を引いてみました。「元素としての炭素。炭（すみ）あるいは、すす」とあります。そして、カーボンオフセットやカーボンニュートラルなどの言葉が立項されています。もちろん、地球温暖化防止活動の文脈で語られるカーボンとは、温室効果ガスである二酸化炭素（CO₂）のことです。炭素の元素記号は「C」です。

■カーボン・プライシングとは？

プライシングは価格をつけることですので、カーボン・プライシングとは二酸化炭素（CO₂）に価格をつけることです。価格をつけることで、気候変動の主な原因になっている二酸化炭素（CO₂）の排出量削減に対する経済的なインセンティブをつける狙いがある。